

平山 亮

Oregon State University Department of Human Development and Family Sciences

Doctoral Candidate

息子介護者の介護サービス・施設の利用におけるパーソナル・ネットワーク・メンバーの役割

本研究は親を介護する男性（以下、息子介護者）が介護サービスや施設をどのように利用しているのか、またそれらの利用のしかたに対して家族や友人、同僚といったパーソナル・ネットワーク・メンバーはどのように影響を与えているのかについて、探索的に検討したものである。本研究の参加者は認知症の親の主介護者である 21 人の男性であり、面接による質的調査の方法を用いてデータを収集した。データは構成主義的バージョンのグラウンデッド・セオリー・アプローチに則って分析を行った。息子介護者は「最善の介護とは何か」についての信念をもっており、その実現の手段のひとつとしてサービスや施設を利用することに抵抗を感じている者はほとんどいなかった。しかし彼らにとって、それらのサービス・施設は自分の介護を補うものに過ぎなかった。すなわち多くの息子介護者は介護の全過程をひとりで把握・管理しようとする傾向があり、それらのサービス・施設が自分の介護に取って代わるようなものとは考えておらず、また、そうされることを期待していなかった。サービス・施設の利用に関する息子介護者のこのような志向に、パーソナル・ネットワーク・メンバーはほとんど影響を与えていなかった。息子介護者は「親の介護者である男性」に対する周囲からの非好意的な反応を避けるために、自分が介護をしていることを人前で口にしない傾向があった。ゆえにネットワーク・メンバーのなかには彼らが介護をしていることを知らない者もあり、息子介護者の生活において親の介護とその他の社会生活は分離・隔絶されていることの方が多かった。これらの結果から示唆されるのは、周囲が介護する男性を受け入れ、彼らが自身の経験を率直に語れるような環境の必要性である。自身の経験を語り、他者からのフィードバックを受けることは、息子介護者が自分の介護についての考え方や方法、特に自分ひとりですべてを遂行しようとする志向について見つめ直す機会となりうると考えられるからである。